

.....

.....

.....

1

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

○当事者 A	年齢[31]歳、 勤続年数[13]年、 現場経験年数[13] 年、 階級[消防士長]、 同様の活動 [過去に 1,2 回程]、 任務 [隊員]
○当事者 B	年齢[]歳、 勤続年数[]年、 現場経験年数[]年、 階級[]、 同様の活動 []、 任務 []
○当事者 C	年齢[]歳、 勤続年数[]年、 現場経験年数[]年、 階級[]、 同様の活動 []、 任務 []
その他 (当事者が 4 人以上の場合)	

11. 事例発生経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過 1	A,他隊員	航空隊と接触	
経過 2	A,航空隊	要救助者を担架に収容	
経過 3	A,他隊員	ピックアップポイントに要救助者を移動	
経過 4	A,他隊員	航空隊の指示により要救助者を確保	場所が傾斜であったため
経過 5	A	ダウンウォッシュによる飛び石が前腕にあたった	
経過 6			
経過 7			
経過 8			
経過 9			
経過 10			

【その事例発生時の状況について】

● ●

○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思うか？

ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

危険情報を把握、予見できなかった。集中力、注意力がなかった。周囲の視界が確保できていなかった。他隊(員)との連携活動がうまくいかなかった。他隊(員)から適切な注意を受けられなかった。たまたま、事故になった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・ 1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・ 活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	はい
・ 体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	はい
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	はい
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

いいえ

【事故発生後の取り組みについて】

.....

○注意力欠如、焦り等の対策について

個人の注意だけでなく、他隊員(隊)の連携を図り安全管理を行なう。

○装備・資機材の対策について

特に無し。

○活動環境の対策について

個人及び部隊で周囲の落下物、飛来物の有無を確認し、事前に排除できるものはしておく。同時に危険箇所はないか確認しておく。

○指揮・情報伝達の対策について

個人及び部隊で周囲の危険に対し注意、喚起を怠らない。



・発生日時 :平成21年5月3日 午後12時頃

経過	現場の状況	航空隊	隊員	他隊員	備考
		航空隊／ ・年齢歳 ・勤続 年 ・現場 年 ・同様の活動:	隊員／消防士長 ・年齢 31 歳 ・勤続13年 ・現場13年 ・同様の活動:過去に1,2回程	隊員／ ・年齢歳 ・勤続年 ・現場 年 ・同様の活動:	
出動指令 出動途上 現場到着 活動初期	出動指令				山岳救助に出動
			現場到着		
			航空隊と接触		
		要救助者を担架に収容			
			ピックアップポイントに要救助者を移動		
活動中期			航空隊の指示により要救助者を確保		場所が傾斜であった
		吊り上げ開始			
活動後期	ダウンウォッシュ発生		ダウンウォッシュによる飛び石が前腕にあたった		周囲の危険に対する注意、喚起、排除を怠っていた。他隊員との連携活動がうまくいかなかった。

◎ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？	
	○直接的な原因:状況判断に問題があった。 ・危険情報を把握、予見できた。 ・集中力、注意力があった。 ・周囲の視界が確保できていた。 ・他隊(員)との連携活動がうまくいった。 ・隊(員)から適切な注意を受けた。 ・たまたま、負傷事故にならなかった。
◎ヒヤリハットが起きた背後要因	
	(心理・体調について) ・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。 ・活動終息(鎮火等)や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。 ・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。 ・活動に対する経験が不足していた。 (活動環境について) ・障害物(建物等)のため周囲の状況が見えなかった。 (活動環境について) ・隊員の連携が不十分だった。